

■(モニカ)伊東静江 カトリック信者で真理の教育を求め続け、{大和学園}を創設し、世界でも稀な信徒らによる学園に発展。

いとうしずえ

郡司千島探検1893=

東京の深川で、小川急電鉄の創業者で経済界の重鎮だった利光鶴松を父に、古くから木場で老舗の材木商を営む若林家の長女を母に、その一人娘に生まれる。

日清戦争始・1894= 1歳:

恵まれた家庭で、父母の寵愛を一心受けて育てられ、また、正真正銘の江戸っ子の、男勝りで、

Bushidou・・1899= 6歳: 深川小学校に入学。自家用人力車で子供を連れての通学で、常にクラスのリーダー的存在であった。

教科書疑獄・1902= 9歳:

日露戦争終・1905=12歳:

尋常科を卒業し高等科へと進学するが、学問のレベルに飽き足らず、教育者になりたいと、東京女子高等師範学校付属高等女学校に目をつけ、一人で入学手続きをとって、周囲を驚かせ、

韓国併合・・1910=17歳: 卒業すると、そのまま師範学校に進まず、教育も世界的視野に立つべきと、英語の修得を目指して、

大逆事件判決1911=18歳:

在日外国人の子女のために前年開校したばかりの東京聖心女子学院語学校に入学。

明治天皇没・1912=19歳:

英語を学ぶうち、外国人修道女たちとの生活に心を打たれ、自ら進んでカトリックの洗礼を受け、洗礼名を“モニカ”と称する。女性の地位の向上のためには、カトリック精神に基づいた女子教育こそ必要不可欠なものであると確信、多大な影響を受けて、

民本主義・・1916=23歳: 卒業。

本格政党内閣1918=25歳: 東京帝大を出て外務省に人省し、将来を嘱望されたエリート伊東亮一と結婚。2男2女を授かる。

大暴落・・・1920=27歳:

原敬首相暗殺1921=28歳:

治安維持法・1925=32歳: 父が社長を務める小川原急行電鉄は、江ノ島線の建設を計画、沿線の街づくりの中核として教育施設が不可欠と見なされ、ここに父娘の進む道が相交わり、自らの学校の建設の夢が現実味を帯び、

世界恐慌・・1929=36歳: *小田急江ノ島線の開通に合わせて、神奈川県高座郡大和村下鶴間(南林間)に、父からの多大な支援

海軍軍縮条約1930=37歳:

を仰いで、念願の学園を開設。建てられた学園は、“やまとなでしこ”に因んで{大和学園女学校}と称し、{大和学園女子高等学校}と改称、日本のミッションスクールの殆どが修道会で運営されている中、一人の女性がキリストの愛の教えに基づく使命感により学校教育にあたるという、ほとんど例の無いもので、立地が農村部ということもあって、開校時は生徒を集めることが非常に困難で、小田急職員の応援を得て小川急沿線の小学校との連絡会を築くなど生徒募集に本腰を入れた結果、生徒数は急速に増えて行く。

満州事変・・1931=38歳:

五一五事件・1932=39歳:

帝人疑獄事件1934=41歳:

高等女学校の第一回卒業式。_男女共学の{大和学園小学校}を開設、当時は稀な英語の時間も取り入れる。軍より一台の自動車が払い下げられると、高等学校のクラブ活動の一環として自動車部をつくる。運転ばかりか整備もしっかりと学ぶ本格的な自動車部は、すぐにマスコミにも知れ渡り華々しく報道された。これが引き金になり、学園の部外活動は次々と誕生し活発になって行く。音楽、絵画や演劇はもちろん、グライダー部まで生まれ、どの部も、人脈によって優れた先生にも恵まれ、{大和学園}は広く知られて行くが、

芥川直木賞始1935=42歳:

_幼児教育に着目し、小田急線喜多見駅前の父母のいる実家の師基地の一部を提供して{大和学園幼稚園}を開く。まだ幼稚園に行く子は少ない時代ながら、隣が高級住宅地成城学園で、順調にスタート。

日中戦争始・1937=44歳:

健保+総動員 1938=45歳:

日米開戦・・1941=48歳:

小田急線の新宿～南林間都市駅の間に、大和学園専用電車の運行が始まる。戦時体制に入って行き、

_渡米し、海外教育事情や婦人運動を視察。 ついに太平洋戦争に突入、敵性語として英語教育の廃止、キリスト教への思想的弾圧など、様々な制約が危惧されるも、私学であること、人家の少ない林間の学園であることなどで緩和されたもいたが、戦局が逼迫すると、女生徒の軍事工場への動員や、軍の命令で校舎の一部が陸軍の宿舍や倉庫に転用され、やがて敷地内に防空壕を掘ったり、戦場のようなありさまになって行く。

敗戦・・・1945=52歳:

*食料増産の国策に呼応して、我が園でも珍しい女子の農業専門学校{大和女子農芸専門学校}を設立。度重なる空襲にも、校舎は焼けることなく、敗戦を迎え、連合国の占領下で立場は逆転し、急速に復興。

新憲法施行・1947=54歳:

極東裁判決・1948=55歳:

朝鮮戦争始・1950=57歳:

_新たな学校教育法のもと{大和学園中学校}を新設し、

{大和学園女子高等学校}は新制高等学校になる。

_ {大和女子農芸専門学校}を廃止し{大和学園農芸家政短期大学}を開校、総合学園の体裁が完成して行くとともに、私立学校法の施行で{財団法人大和学園}は{学校法人大和学園}となり、その理事長に就任。

独立回復・・1951=58歳:

テレビ放送始・1953=60歳:

国連加盟・・1956=63歳:

なべ底不況・1957=64歳:

インフレーション・1958=65歳:

安保闘争・・1960=67歳:

タイタイ病始・1961=68歳:

_ : 地域住民の期待と要望に応じて、学園内に{大和学園幼稚園}を開設、

_ローマでのカトリック国際会議に日本代表として出席。

_永年の私学の学校教育に尽くした功績に対して、藍綬褒章。

全国総合計画1962=69歳:

TV宇宙中継始1963=70歳:

東京オリンピック 1964=71歳:

大学紛争始・1965=72歳:

いざなぎ景気1966=73歳:

美濃部都知事1967=74歳:

産業開発費年隊の活躍で女子の海外移住希望者が増えたことから、短期大学に{大和女子海外拓殖学校}を付設。*学園の運営を確実なものとするため、数名の女子教職員たちと誓いをたて、小さな宗教団体{モニカ会}

}を結成、その後、全教職員が参加する組織となって行き、世界でも稀な信徒・使徒らによるカトリック学園の創始として、カトリック界、聖職者から多大な評価と称讃を得るところとなる。

_ローマの世界カトリック農村生活会議に、日本代表として出席。

短大に併設して農芸栄養科を新設、

_勲二等瑞宝章。

農芸家政、栄養の二科へのニーズが衰退して来たことから、短大に保育科を新設。その後、二科は廃止、保育科は幼児教育学科として改められ、順調な発展を遂げる。_自らの学園が真にカトリック学校と称するには、キリストの証である“御聖体”が必要であり、創設以来何度も、横浜司教区やローマ教皇庁に申請を出すも、信徒使徒職の学校であるため、なかなか許可は下りなかったが、

_建学40年目、ついに、ローマ教皇庁から正式な許可が得られ、荘厳なミサが行われ、学園の聖堂に御聖体が安置され、労が報われるとともに、東京教区カトリック婦人同志会会長になって、安堵したのか、

トルシヨク・・1971=78歳:

*持病の心臓病が悪化するなか、強い意志をもって、普段どおり校長室で仕事をし、朝礼では生徒たちに笑顔でのぞんでいたが、ついに心筋梗塞で、没した。

インターネット聖セシリア短期大学ホームページほか、